

輝く島原人

THE SCENE Vol.69
島原に生きる

継ぐ踊りを伝統

復活させた「島原七万石踊り」

島原七万石踊りは、戦後間もない昭和25年に、地域復興のため、当時の観光団体が郷土作家の宮崎康平氏に作詞を依頼し、曲や踊りもあわせて作られました。昭和30年代にかけて地域の祭りや行事などで盛んに踊られていましたが、時代の流れによって徐々に衰退してしまいました。

「今から17年ほど前になるでしょうか。商工会議所女性会で活動していた頃、県大会のアトラクションを企画する中で島原七万石踊りに出会いました。すでに踊られなくなって長い年月が経過していましたが、その唄や歴史を知るほどに、島原に伝えていくべき素晴らしい郷土芸能だと強く思い、踊りを復活させるための活動を始めました。」と、語るのは「島原七万石を踊る会」会長の山口さんです。踊る会は平成19年11月に結成。資料集めや昔の踊りや唄を知る人に話を聞いたり、民謡の先生にお願いして曲を収録してもらうなど奔走したそうです。「大変でしたが、皆さんのご協力のおかげで、現在の形で踊りを披露させていただけるようになりました。市内はもとより市外での行事など、島原を代表する芸能の一つとして出演のお声掛けをいただくようになったことはとても嬉しいことです。」と、語ります。